

5 自給飼料基盤強化による肉用牛経営体の育成

1 対象

和泊町和牛振興会147戸，知名町畜産振興会52戸，与論町和牛改良組合268戸，飼料実証農家5戸，畜産新規就農者7戸，子牛育成モデル実証農家4戸

2 課題を取り上げた理由

- (1) 自給粗飼料の収量確保のため，長大飼料作物とイタリアンライグラスの組合せによる周年作付体系や，輸入乾草に代わる子牛のための飼料作物草種の導入について検討する必要がある。
- (2) 併せて，母牛の飼養管理技術改善のため，栄養改善や暑熱対策により繁殖障害や熱中症等の事故発生を未然に防ぐとともに，子牛の商品性向上を推進し，若手農家の規模拡大に向けた支援を行う必要がある。

3 活動内容

- (1) 飼料作物増産確保の推進
 - ア 単収向上による自給粗飼料の確保
スーダングラスとイタリアンライグラスによる年2回作付体系の実証を行うとともに，飼料作物栽培ごよみを作成した。㊦
 - イ トランスバーラ導入による子牛用自給粗飼料の確保
トランスバーラについて基礎講座や現地就農トレーナー研修等で農家へ情報提供を行うとともに，和泊町実験農場で苗床となる畑の新植を行った。㊦
- (2) 飼養管理技術の向上
 - ア 繁殖障害や熱中症等の事故防止支援
 - (ア) 母牛の栄養改善のため，飼料給与分析を行い給与量の改善指導を行うとともに，母牛管理ごよみを作成した。また，自給粗飼料の硝酸態窒素濃度分析を行い，高濃度検出農家には飼料中濃度を下げるため，刈取延期の指示や，次作からの施肥量改善等指導を行った。㊦
 - (イ) 牛舎の屋根へ石灰塗布を行い効果を検証するとともに，関係機関と連携し，熱中症多発農家への個別巡回指導を行った。㊦
- (3) 新規就農者への支援 ㊦
 - ア 認定就農計画等達成に向けた飼養管理技術支援
新規就農者へ肉用牛基礎講座等の研修会や個別巡回指導により，認定就農計画等達成に向けた飼養管理技術指導を行った。
 - イ 子牛商品性向上モデル農家の育成
沖永良部子牛育成ごよみ・子牛育成飼料給与マニュアル（与論版）のモデル農家をそれぞれ選定して飼養管理指導を行うとともに，定期的に検討会を行った。

4 活動の成果

- (1) 飼料作物増産確保の推進
 - ア 単収向上による自給粗飼料の確保
スーダングラスを4月に播種した結果，9月までに2回収穫し，乾物収量で1,515kg/10aが得られた。その後作のイタリアンライグラスは10月に播種し，3月までに3回収穫でき，乾物収量は900kg/10a以上であると推察された。当地域でのローズグラスの周年栽培による年間乾物収量は1,500~2,000kg/10aであり，スーダングラスとイタリアライグラスによる年2回作付体系の年間乾物収量は2,400kg/10a以上であると推察されることから，スーダングラスとイタリアライグラスによる年2回作付体系は，今後普及させていく栽培体系として有望であると思われた。そこで，基礎講座や現



スーダングラス (6/11)

地就農トレーナー研修で、飼料畑の確保が難しい新規就農者等へスーダングラスとイタリアンライグラスによる年2回作付体系を紹介するとともに、飼料作物栽培ごよみを作成した。㊦

イ トランスバーラ導入による子牛用自給粗飼料の確保
トランスバーラについて農家巡回時や基礎講座、現地就農トレーナー研修等で情報提供を行った結果、6月から新たに2戸で合わせて10a栽培を開始した。また、和泊町実験農場ほ場にて、苗床になるよう試験栽培を開始した。㊦



トランスバーラの植付（すき込み）

(2) 飼養管理技術の向上

ア 繁殖障害や熱中症等の事故防止支援

(ア) 痩せすぎて種付きの悪い母牛群の栄養度チェックを行い、農家の意識改善を図るとともに、飼料給与診断により分娩前後の給与量の改善指導を行うことで、種付きが改善された。また、母牛の飼養管理をまとめた母牛管理ごよみを作成した。

また、慢性硝酸塩中毒が疑われる農家の自給粗飼料を分析した結果、高濃度の硝酸態窒素が検出される農家が多かった。永年草のローズグラスの増収のための過剰施肥が原因とみられたことから、施肥基準を守り、定期的に草地更新を行うよう指導した。㊦



母牛を触り栄養度をチェック

(イ) 牛舎の屋根へ石灰塗布を行い効果を検証した結果、石灰塗布による遮熱で日中の牛舎内温度は低下するが、最低気温は25℃を下回らないことから、換気扇を使用して体感温度を下げる必要があることを確認し、啓発資料を作成して知名町の畜産農家全戸に配布した。

また、熱中症多発農家には畜産部会で個別に現場で検討を行い、事故の原因を解明する中で、建物が近接していることで熱中症が多発する傾向が明確になってきたことから、改善方を提案した。㊦



屋根への石灰塗布

(3) 新規就農者への支援 ㊦

ア 認定就農計画等達成に向けた飼養管理技術支援

新規就農者7戸へ肉用牛基礎講座等の研修会や個別巡回指導で技術支援を行うとともに、資金計画作成や経営分析等経営支援を行った結果、飼養環境は改善され、順調に規模拡大が進み、今年度の認定就農計画目標は概ね達成されている。

イ 子牛商品性向上モデル農家の育成

モデル農家へ飼養管理のポイントを押さえて指導したところ、飼料給与量と飼養環境の改善が図られた。また、子牛体測と同時に母牛の栄養改善を行うことで、子牛が健康に生まれ、順調に育つようになった。

5 今後の課題

- (1) 飼料作物栽培ごよみの普及及びスーダングラスとイタリアンライグラスによる年2回作付体系の紹介
- (2) トランスバーラの普及、面積拡大及び苗床の安定収量確保
- (3) 栄養改善方策や暑熱対策の普及及び母牛管理ごよみの波及
- (4) 和泊町の畜産農家への屋根石灰塗布資料の配布
- (5) 新規就農者等への飼養管理技術向上及び規模拡大のための支援
- (6) 沖永良部子牛育成ごよみ・子牛育成飼料給与マニュアル（与論版）の普及推進

6 担当した普及職員（○印はチーフ）

○野崎聡，田中慶